

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	大正区
学 校 名	大阪市立小林小学校
学校長名	山本 武司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小林小学校では、第6学年 19 名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語科は、昨年度よりも平均正答率が少し下がった。
- 算数科は、昨年度よりも平均正答率が大きく下がった。
- 理科は、令和4年度よりも平均正答率が少し下がった。
- 平均無回答率は、国語科・算数科・理科の3教科とも全国平均および大阪市平均よりも差が大きく無回答率が高かった。
- 国語科と算数科において、約5割の児童が本校平均正答率以上にあてはまる。
- 理科においては、約4割の児童が本校平均正答率以上にあてはまる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語科の学習指導要領の内容では、「我が国の言語文化に関する事項」について、全国平均および大阪市平均よりもやや上回った。しかし、それ以外の領域は、全国平均および大阪市平均との差が大きかった。特に、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均および大阪市平均よりも大きく下回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」についても課題がある。

〔算数〕

算数科の学習指導要領の内容では、全ての領域において、全国平均および大阪市平均を大きく下回る結果となった。どの領域においても、基礎・基本の学力を定着させていくことが大きな課題である。

〔理科〕

理科の学習指導要領の内容では、全ての領域において、全国平均および大阪市平均を大きく下回る結果となった。ICT機器を効果的に活用しながら、確かな学力の定着を図る授業改善が必要である。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、全国や大阪市のもっとも肯定的な回答よりも大きく下回っているが、今年度は昨年度よりもっとも肯定的な回答が上回っている。（R5:9.3%、R6:33.3%、R7:35%）学級での取り組みや教員が児童のよいところを認めることで、少しずつ自尊心が高くなってきていると考える。

「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問では、「全くしない」が30%であった。宿題を工夫することで、今年度は昨年度よりも「全くしない」の回答は下回っているが（R6:52.6%）、家庭学習が定着していない児童が一定数いることは、大きな課題であると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

- 主体的・対話的で深い学びの推進
学力向上支援チーム事業を活用し、研究教科である算数科を中心に、スクールアドバイザーの指導を受け学校全体で授業改善を行う。児童一人ひとりが学習した内容を理解し、基礎・基本の学力を身につけられるようにする。児童が課題を見出し、自ら進んで解決策を考えたり、ペア・グループ・学級全体と場面に応じた話し合い活動を充実させたりして、児童が考えを深める場の設定を行う。
- ICT機器を活用した教育の推進
1人1台学習者用端末を活用し、学習意欲を向上させ、個別最適化された学習環境を充実させる。
- 学習内容を定着させるための取り組み
学びコラボレーターと連携し、放課後学習を充実させる。児童が宿題や既習学習プリントに自主的に取り組むことで、基礎・基本の学力を定着させるようにする。また、宿題の量や出し方について校内で意見交流をしたり、研修したりすることで、今後の学習指導に活かしていく。
- 自己肯定感を高める取り組み
児童一人ひとりが活躍できる場を設定した、自己肯定感を高める取り組みを継続していく。

児童質問より

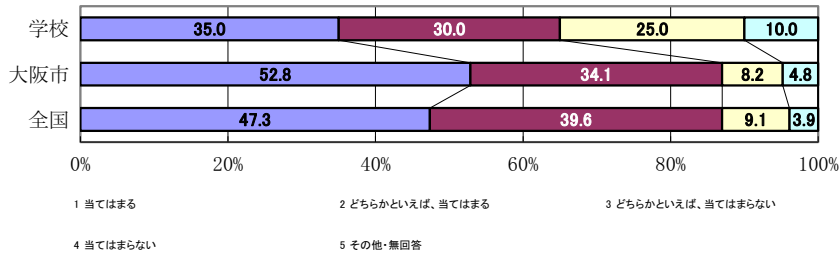
質問番号

質問事項

5

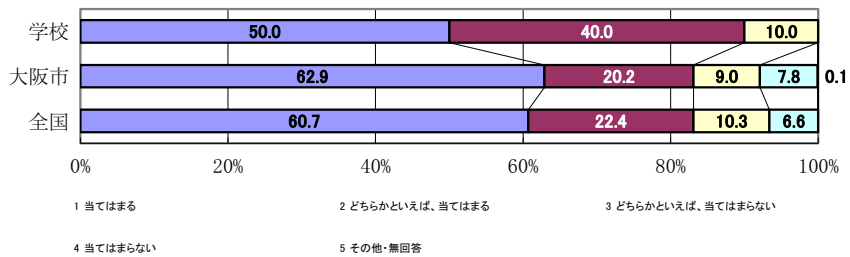
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



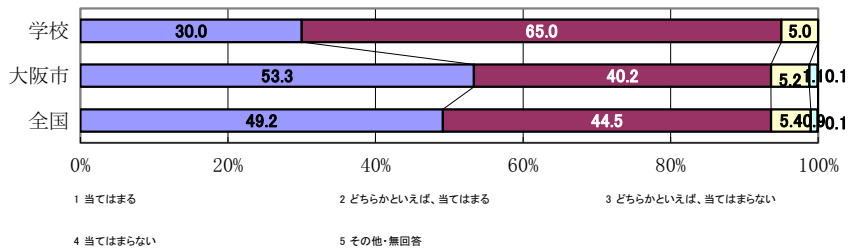
7

将来の夢や目標を持っていますか



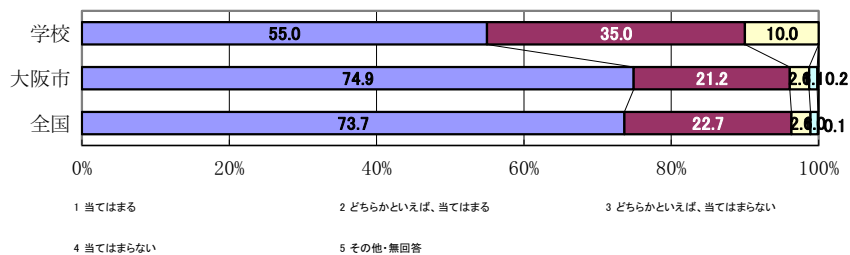
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



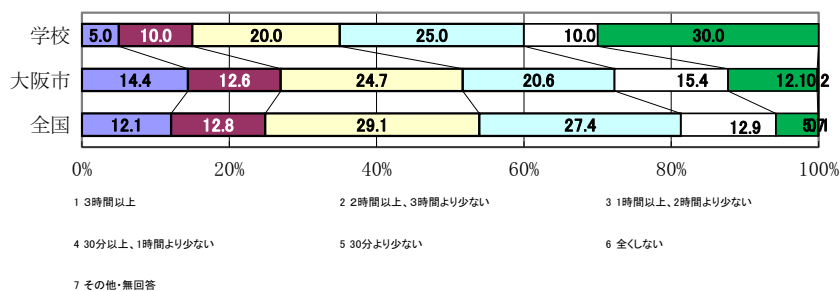
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



学校質問より

質問番号

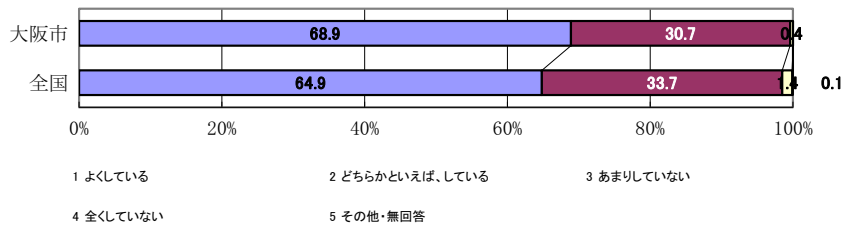
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

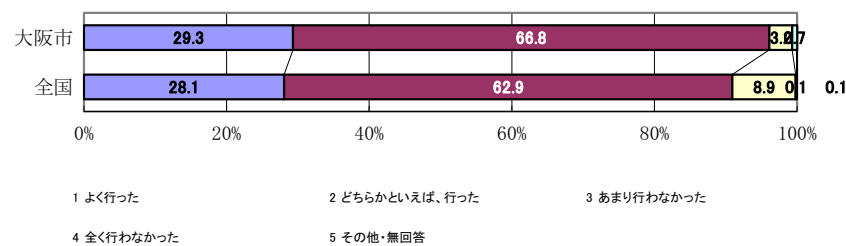
学校 「どちらかといえば、している」を選択



30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

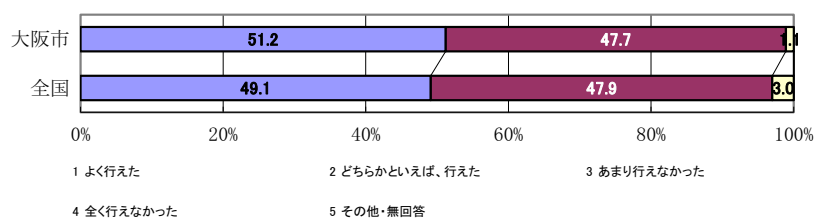
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



48

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた児童に対する対応を行っていましたか

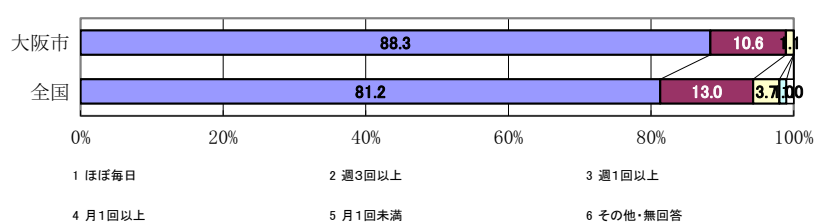
学校 「よく行えた」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

